長野南3位　北信勢で初

▽3位決定戦
長野南 2（1－0、1－0）0 FC昭和
梓川村 0（0－0、0－0）0 旭町
（PK7－6）
開智 1（0－1、1－0）1 諏訪市
（PK9－8）
塩尻西 3（0－0、3－0）0 松本北
▽準決勝
梓川村 2（0－2、2－0）2 長野南
（PK5－4）
塩尻西 1（1－0、0－0）0 開智

○…「ここまでやれば上出来。子どもたちは本当によく頑張った」と、北信勢で初の三位入賞を果たした長野南の宮林弘和監督。準決勝の対梓川戦では2点をリードされたものの、気持ちを奮い立たせた子どもたちの粘りで追い上げた。北信からの出場ながら、地元チームをしのぐ大応援団が詰めかけ、ハッスルプレーに大きな声援を送っていた。

コーナーキックからゴール前の攻防へ（長野南－梓川戦）

大きな自信

宮林弘和・長野南監督の話　ボールコントロールなど、個人技を生かした好プレーが目立った。チームとしてはこれまでベスト8が最高だったので、三位入賞は大きな自信につながるはずだ。今後も新人戦の悔しさをバネに、個人技をさらにレベルアップさせるのが課題になるだろう。選手たちは本当によくやったと思う。

優勝したかった

梅崎俊也・長野南主将の話　とても悔しい。優勝したかった。準決勝の前半はミスが目立ち、相手に得点を許してしまった。後半で何とか追いついたが、PKで敗れてしまい残念だった。

イレブン全員がPK

準々決勝　開智－諏訪市

○…準々決勝の開智対諏訪市戦は、1－1のままPK戦にもつれこみ、十一人の選手全員がシュートを放つ大接戦となった。十一人ずつけって8－8の同点で迎えた十一人目には、ゴールキーパー同士のけり合い。先に開智が決めたあと諏訪市が外し、9－8で決着。開智の選手は父母とともに涙を流し、優勝したかのような喜びようだった。

接戦が多く、PK戦での決着も多かった（梓川－旭町戦）

痛い前半のミス

宮島秀樹・諏訪監督の話　個人技に差が出て、前半のミスが痛かった。後半よく粘ったが、相手の守りを突破できなかった。

力合わせ戦った

中村亮・開智主将の話　準々決勝はみんなが力を合わせて接戦を勝つことができた。精いっぱいやったから悔いはない。

〝ご褒美〟お預け

梓川イレブン

○…準々決勝終了後、旭町とのPK戦を制した梓川のイレブンが、父母の輪に駆け寄っていた。一人が「勝ったらおみやげあげる」と約束したそうで、〝ご褒美〟をもらいに参上したが、ところが「そのおじゃメダルは入らない」ねと冗談を言われると、サッと手を引っ込める選手も。笑顔の戻った子どもらしい姿があった。

さわやかな笑み

○…準決勝に進んだ四チームの実力は五分で、それだけに、準決勝で惜しくも敗退した三チームの選手たちは試合後「悔しい、勝ちたかった」と口々に言いながら、メダルをつけると、子どもらしい笑みが浮かんだ。

一喜一憂
子どもたちのプレーに一喜一憂の父母たち

市民タイムス杯サッカー新人戦
――第2日――

週にわたって熱戦を繰り広げた。5年生を中心にした新人戦は、来年のリーグ戦の行方を占う重要な大会だけに、各チームとも力いっぱいのプレーを展開した。

決勝戦は序盤、両チームとも互角の戦いだったが、塩尻西が1点を先制し試合を優位に進めた。準々決勝と準決勝をともにPK戦で制して決勝に進出した梓川は、終始きびきびした動きで速攻を見せたが、後半にも1点を加え、攻撃力に勝る塩尻西に及ばなかった。

押し切りV

…体がラインを割って

スルーパス生かす　梓川の粘り寄せつけず

【評】オープン攻撃からスルーパスを有効に生かした塩尻西が、終始押し気味に試合を運び、梓川の守りを突破して先制した。前半九分、塩尻西は中山の左からのパスを二ール前で受けた野口が、フリーから右足でシュート。後半十三分には、ゴール前の混戦から野口のセンタリングを金子がヘッドで合わせシュート。ゴール右隅のバーに当たり、梓川のキーパー山口がキャッチしたが、体勢を崩してゴールラインを割って2点目を許した。

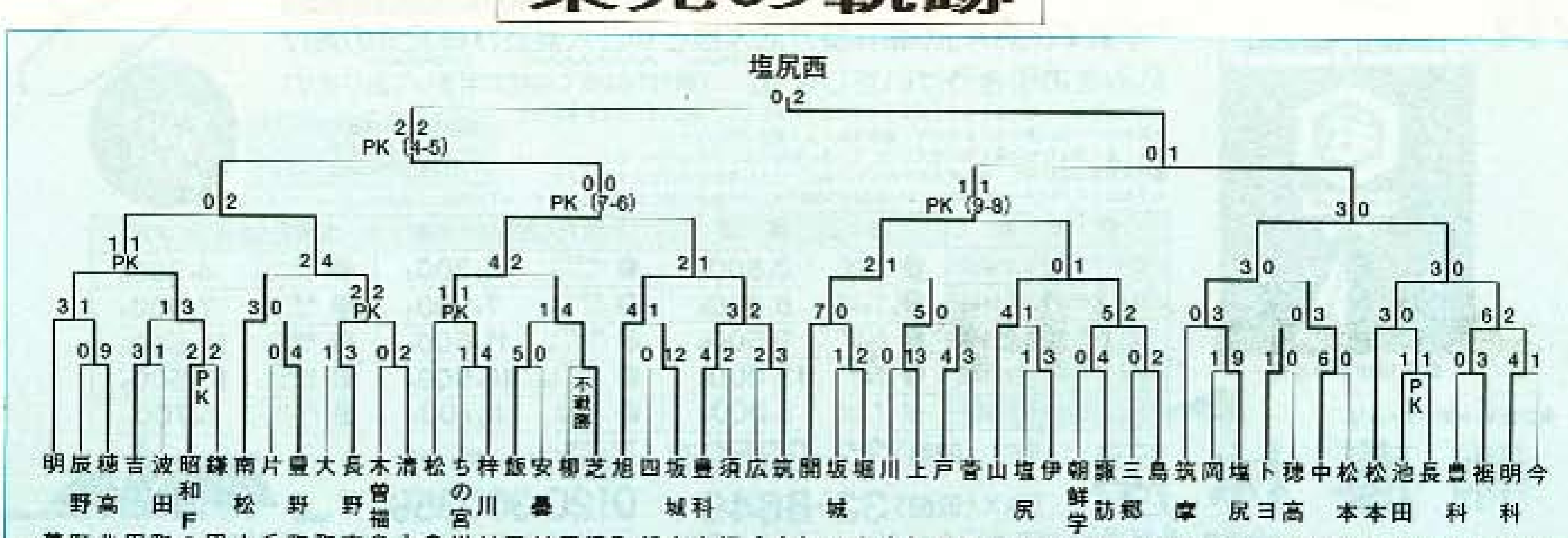
梓川は、前半四分に相手ゴール前でフリーキックを得るなど好機をつかんだが、塩尻西のチェックの厳しい堅い守りの前に得点できなかった。

▽決勝
塩尻西 2（1－0、1－0）0 梓川村

波に乗れた

北岡泰雄・塩尻西監督の話　初日で点が取れていたので波に乗れた。日ごろの練習の成果が出た。

全員が声出せた

岩岡数弘・梓川主将の話　とても悔しいが、内容のよいゲームができた。試合では全員がよく声を出し、よい試合をしたい。

栄光の軌跡